

令和5年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和6年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

別紙

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R5	②今年度の活動内容 R5	③自己点検及び改善すべき事項 R5	④評価概要 R5	⑤評価 R5	⑥改善事項 R5	⑦改善事項を踏まえたR6活動計画
1	主管会議	校長	総務・人事係	19	定例会議13回、臨時会議6回 ①本校の重要事項について適切に審議した。 ②定例会議13回、臨時会議6回（うち、1回はメール開催）開催。 ③運営会議・教員会議その他委員会等の意見・要望を考慮しつつ、適切な審議および判断を下した。 この他引き続き会議資料をペーパーレスとし、経費削減・業務削減を行った。次第についても見直しを行い、運営会議と重複する報告事項について削除し、簡略化した。	現在、毎週実施されている主管会議メンバーの打合せについて、意思決定の役割を持つものとして正式な位置づけをする。	会議の効率化と各種会議からの意見集約のバランスに関して寄せられた要望に関して意識的であることが望まれる。	○	評価概要で示した件に関して、運営会議・教員会議等でチェックする機会を設けるのも一方法かと思われる。	①主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制として、運営会議（協議）→主管会議（審議・承認）→教員会議（報告・周知）の流れで開催し、主管会議では本校の重要事項について審議する。 ②年間13回の定例主管会議（毎月1回※3月は2回）および、緊急を要する場合には臨時主管会議を適宜開催する。 ③運営会議・教員会議その他委員会等の意見・要望を考慮しつつ、適切な審議および判断を下す。 ④主管会議構成員連絡調整会議を毎週開催する。
2	運営会議	校長	総務・人事係	14	定例会議13回、臨時会議1回 ①本校の運営事項について協議した。 ②定例会議13回、臨時会議1回開催。 ③各学科・その他委員会等の意見・要望を共有しながら、適切に協議した。 この他引き続き会議資料をペーパーレスとし、経費削減・業務削減を行った。また、主管会議より先に運営会議を開催することで、運営会議で効果的に意見等を集約できるようになった。	適切に実施した。	主管会議と共通とする。	○	主管会議と共通とする。	①主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制として、運営会議（協議）→主管会議（審議・承認）→教員会議（報告・周知）の流れで開催し、運営会議では本校の運営事項について協議する。 ②年間13回の定例運営会議（毎月1回※3月は2回）および、緊急を要する場合には臨時運営会議を適宜開催する。 ③各学科・その他委員会等の意見・要望を共有しながら、適切に協議する。
3	スパイラルアップ会議	校長	企画・研究協力係	1	①本校の各種点検に関することについて、調査および審議した。 ②点検評価・FU委員会および将来計画委員会と連携し、本校の会議・委員会等の活動や点検評価、FD活動のブラッシュアップを図った。	改善すべき事項なし。	学内の活動を適切に評価している。	◎	特になし。	①本校の各種点検に関することについて、調査および審議する。 ②点検評価・FU委員会および将来計画委員会と連携し、本校の会議・委員会等の活動や点検評価、FD活動のブラッシュアップを図る。
4	教務会議	教務主事	教務係	32	定常的な教務関連業務に加えて、以下を実施した。 ①入学志願者数の回復を活動基本方針とし、継続的に入試広報活動の分析・改善を進めた。広報活動の拡大、重点地区の設定などの活動を進め、入試倍率が向上（約1.4倍→約1.8倍）した。 ②教育の質保証重点6項目について、過度に教職員の負担にならないように配慮して進めるとともに、分野横断能力育成の取り組み等についての広報（高専祭での協同教育の発表）を行った。中学校のキャリアパスポートとの連携について、岐阜県のキャリアパスポートを参照して教務会議で検討した。	適切に実施した。	計画した活動を、確実に実行している。	◎	特になし。	①入学志願者数の増加を活動基本方針とし、継続的に入試広報活動の分析・改善を進める。 ②入試方法の改善について検討する。
4	-1 FD活動推進会議	教務主事	教務係	4	①FD講演会を2回企画・実施した。 ②授業参観を2回実施した。	適切に実施した。	計画した活動を、確実に実行している。	◎	特になし。	①FD講演会を企画・実施し、FD活動を推進する。 ②授業参観を実施する。

令和5年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和6年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

別紙

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R5	②今年度の活動内容 R5	③自己点検及び改善すべき事項 R5	④評価概要 R5	⑤評価 R5	⑥改善事項 R5	⑦改善事項を踏まえたR6活動計画
5	専攻科会議	専攻科長	教務係	13	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、学生のインターンシップ参加、特別研究1審査会等に関する改善、特別適用の変更届への対応について実施した。 ①入学定員と実入学者数との乖離を縮小させることに関する検討を行い、R7年度専攻科入学選抜より、推薦合格者数の削減、TOEICの最低スコアを50点加算する等、一部実施方法を変更することを決定した。 ②専攻科修了要件にTOEICスコア425を設定していたが、R7年度に専攻科入学する学生（R8年度修了の学生）より、その修了要件を廃止することを検討した。 ③コロナ禍の状況を鑑みて、本年度より、特別実習1実施方法をコロナ禍前の方法に戻すことを決定した。 ④特別研究1の審査会において、優れた英語によるポスターについては優秀作としてweb公開することを試みたが、優秀選定者からweb公表辞退の申し出等があり、再検討することになった。 ⑤特別適用専攻科の審査において、多くの個表が不適となり、今後の改善に向けて検討する必要がある。 ⑥特別審査の変更届出により、新たに個表23件が適の判定を受けた。 ⑦コロナ禍の状況を鑑みて、海外インターンシップ事業が完全に復活して実施され、15名の学生が参加した。	活動状況は良好である。 特別適用専攻科の審査を踏まえて、今後の長期的な対策として、教員の研究業績の積み増しに関する検討する必要がある。	活動状況は良好である。不適となった個表を分析したうえで、改善して頂きたい。	◎	特になし。	特別適用専攻科の審査結果に関わる問題は、専攻科会議のみで解決できる問題ではなく、今後の学校運営全体に関わる問題である。そのため、本校における将来計画委員会「中堅教員による将来ビジョン検討ワーキンググループ」に対して、専攻科会議より改善案の一例を提起し、そのワーキンググループにおいて具体的な改善策等について検討する。
6	学生会議	学生主事	学生係	27	定例の会議の主な議題を次に示す。日常的な交通安全指導・校内巡回状況の情報共有し、校内の風紀維持に努めた。学生会の活動と行事の進捗と運営について指導状況を共有し、健全で楽しい学生会活動となるように努めた。適宜、表彰、懲戒、奨学金への推薦について審議した。また、審議事項を計画的に進めることによって、会議回数は昨年度35回から今年度27回に減らせた。 その他会議では、学校運営に対して、学生規程のうち運転免許に関する箇所の修正、学生表彰の修正について審議した。その結果、学生会議委員、学生係職員の煩雑な手続きと業務を削減するとともに、混沌としていた表彰を整理できた。 全ての学生会行事を実施し、特に高専祭は創立60周年記念事業を同時開催し、入試倍率の向上に貢献したと自負している。	活動状況は良好であり、エフォートも概ね適正である。本校の全体としての業務量が増す中、慣例的になっている規程や指導を常に見直し、その必要性と業務削減を検討する。	学生規程の見直し、会議回数の削減等の改善が見られた。学校行事についても適切に実施された。	◎	特になし。	R5の懲戒と未解決の盗難・紛失は、過去最も少ない水準であった。そのため、昨年度と同様の登校指導と校外の巡回体制を維持し、引き続き校内の風紀維持に努める。 高専祭やクラブ活動等の学生会活動を利用して、本校の知名度向上、地域貢献、近い将来の入試倍率向上に繋がるような催し等を企画する、また催しに参加する。
7	寮務会議	寮務主事	寮務係	26	①寮務会議は予定通り適切に実施された。新型コロナウイルスの五類移行に対応して、食堂や寮居室・談話室などの使用ルールを変更した。 ②寮生会活動は、4年ぶりのバーベキューを含む寮祭や、球技大会・忘年会などを活発に実施することができた。また、寮内学習会を不定期(6回)に開催し、寮生同士の学習の場の構築に努めた。 ③学外の学寮指導員に当直を委託することによって、教員の当直業務の負担軽減に努めた。	活動状況は良好である。	コロナ後の対応、寮内学習会、教員当直業務の緩和等、適切に実施された。	◎	特になし。	令和5年度活動計画を継続し、よりよい寮にしていける。 ①定例の会議を、前期は毎週木曜日、後期は隔週木曜日の開講期間に開催し、安全で快適な集団生活を円滑に進める為の方策を講じる。 ②寮生会などを通じて、学び合いの場として寮という場と制度の基礎を構築する。 ③留学生と日本人学生の交流を進める。 ④寮内のセキュリティ向上と教職員の業務負担軽減に努める。
8	将来計画委員会	教務主事	企画・研究協力係	3	①入試改革検討WG及びIR分析チームによる活動を継続し、IRに基づく教学マネジメントを推進した。入試制度改定を対象として、入試及び教務データに基づき、推薦/学力入学の比較分析を実施するとともに、アセスメントプランを作成した。 ②中堅教員による将来計画WGを設立して、入試制度の改正案を策定し、将来計画委員会への提案を行った。	適切に実施した。	活動は概ね良好である。 ①の活動の成果が分かり難い。	◎	①の活動の具体的な目標があると良い。	①IRに基づく教学マネジメントを継続して推進する。 ②中堅教員による将来計画WGを継続して多様な視点から将来計画することを検討する。
9	財務・施設委員会	校長	財務係・施設係	4	各種予算・決算や施設整備に関する事項について、十分な審議のうえ実施した。 ①構内施設の改修・利用計画における主な財源となる施設整備費補助金事業及び営繕事業については、十分な審議のうえ要求事項を決定した。 また、中長期的な構内施設利用計画については、ワーキンググループを立ち上げ、具体的な検討を開始した。 ②当初予算配分については、光熱水費の高騰を見込んで各種予算を削減することによりその財源を確保することを決定した。ただし、結果的に光熱水費が予想を下回ったため、余剰となる予算については各学科等からの要求に基づき、教育研究活動や学生の福利厚生に充てることを決定した。	適切に審議され、実施した。 改善事項は特になし。	適切に実施された。	◎	特になし。	①施設整備費補助金概算要求事業や営繕事業など構内施設の改修・利用計画について、キャンパスマスタープランの策定とともに十分な審議をしていく。 ②学内予算配分については、ヒアリングの結果等を踏まえ十分な審議を実施し本校の機能強化を図る。

令和5年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和6年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

別紙

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R5	②今年度の活動内容 R5	③自己点検及び改善すべき事項 R5	④評価概要 R5	⑤評価 R5	⑥改善事項 R5	⑦改善事項を踏まえたR6活動計画
10	入試運営委員会	教務主事	入試係	6	①アドミッション・ポリシー、面接評価基準に基づく入学選抜を実施した。 ②円滑な入試が実施できるよう、入学選抜実施要項・実施要領を改訂した。	適切に実施した。	適切に実施された。	◎	特になし。	①アドミッション・ポリシー、面接評価基準に基づく入学選抜を実施するとともに、引き続き入試方法の改善を検討する。
11	広報委員会	研究主事	総務・人事係	3	広報委員会の活動として、高専だよりや60周年記念資料のとりまとめ・編集など、実務的な役割ではなく、本校の広報の在り方について検討することに重きを置いた方が良いということになり、3回開催された委員会では、それぞれ以下について調査・検討された。 ・(9月) ウェブの検討 ・(12月) 印刷物の検討 ・(3月) 電子メディアの検討	当初の計画に従って実施した。	高専だより発行、60周年記念事業実施に加えて、今後の広報方針について検討された。	◎	特になし。	広報活動の充実のために、以下の2点に取り組む。 ①高専だよりの外部広報に対応するための改善計画を検討する。 ②本校ウェブの効果的な活用のための改善計画を検討する。
12	人事委員会	校長	総務・人事係	10	①教員の採用・昇任の選考、教職員の人事管理、非常勤講師の選考について、随時適切な審議を行った。 10回開催。	改善すべき事項なし。	適切に実施された。	◎	特になし。	①教員の採用・昇任の選考、教職員の人事管理、非常勤講師の選考について、随時適切な審議を行う。
13	安全衛生委員会	校長	総務・人事係 契約係 施設係	12	①安全衛生委員会規程に基づき防災対策(第2条)、環境保全(第3条)、安全衛生(第4条)に関する事項を審議した。 ②安全衛生に関する事項については、毎月1回委員会を開催し、教職員の危険防止・健康促進・労災防止等に関する事項を審議した。新型コロナウイルス感染症については、5類に引き下がったことにより、前年度ほどの取り組みは求められなかったが、適宜産業医等の助言をふまえ随時適切に対応した。 また、熱中症の予防講習会、熱中症予防についての注意喚起・救急法講習会・ストレスチェック(外部委託)も実施した。	適切に実施した。	適切に実施された。	◎	特になし。	①安全衛生委員会規程に基づき防災対策(第2条)、環境保全(第3条)、安全衛生(第4条)に関する事項を審議する。 ②安全衛生に関する事項については、毎月1回委員会を開催し、教職員の危険防止・健康促進・労災防止等に関する事項を審議するとともに、新型コロナウイルス感染拡大についても情報共有および審議を行い、他の教職員に対しても感染予防を啓発する取り組みを行う。
14	点検評価・フォローアップ委員会	委員長	企画・研究協力係	3	①令和2年度受審査の大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を踏まえて、本校の外部評価「参与会」の方法を見直し、6月末に改善状況を報告(観点1-1-③)し、改善が認められた。R05年度は「令和4年度岐阜工業高等専門学校 外部評価報告書」を参与会で添付して報告した。 ②令和5年度は、R03年度に本点検評価・フォローアップ委員会の「中期計画ワーキンググループ」にて中期計画の点検を行い、「自己点検・評価実施ワーキンググループ」にて参与会を実施し、「学習評価フォローアップワーキンググループ」にて授業アンケートや成績資料保存の方法など検討し実施した。それぞれのWGでは活動しやすいようにWG長、副WG長を置いた。	改善すべき事項なし。	活動は概ね良好である。 ①の結果の公表について、示されていない。②の促進度合いが分かり難い。	◎	特になし。	①参与会を実施し、外部評価報告書を作成する。課題を抜き出しスバイラルアップ会議へ提出する。 ②本点検評価・フォローアップ委員会の「中期計画ワーキンググループ」、「自己点検・評価実施ワーキンググループ」、「学習評価フォローアップワーキンググループ」が活動しやすいようにWG長、副WG長を置く。

令和5年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和6年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

別紙

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R5	②今年度の活動内容 R5	③自己点検及び改善すべき事項 R5	④評価概要 R5	⑤評価 R5	⑥改善事項 R5	⑦改善事項を踏まえたR6活動計画
14	-1 中期計画WG	委員長	企画・研究協力係	2	①令和4年度の年度計画達成状況（高専機構本部の書式）の点検を実施し、その状況や課題に応じた令和5年度の年度計画を確認した。 ②令和4年度に本校の年度計画の策定及び実績実施状況の自己点検・評価に関するガイドラインを再検討し、下記のとおり評価することに統一したため、3年目となる令和5年度においても記述方法を詳細に点検した。 1) 『年度計画の策定及び実績実施状況の自己点検・評価に関するガイドライン』に準じているか。特に箇条書きの表記方法。（アラビア数字の箇条書きをやめて丸印の列挙で統一） 2) 「年度計画」と「実施状況」の記載項目が対応しているか。 3) 「年度計画」が定量的である場合には、「実施状況」も定量的に表現できているか。 4) 「問題点等」の列に、「○」、「△」、あるいは「×」の記載はあるか。	改善すべき事項なし。	活動は良好である。	◎	特になし。	①作成された年度計画を確認し、年度計画達成状況（高専機構本部の書式）を点検する。
14	-2 自己点検・評価実施WG	委員長	企画・研究協力係	4	①令和4年度に実施した岐阜高専の自己点検・評価規程に基づく自己点検評価結果をWebに公開した。 ②参加会を9月に実施し、「令和5年度岐阜工業高等専門学校 外部評価報告書」を作成し、説明を行った。 ③学位授与機構から、指定事項の改善報告を得た。 ④令和3年度に学習評価フォローアップ点検 授業アンケート、教育目標に関する最低ラインの数値設定を全て3.5に決定したため、3年目となる令和5年度においても令和4年度分について点検し、その結果を7/10の教員会議で報告した。	改善すべき事項なし。	活動は概ね良好である。 ②の結果の公表について、示されていない。	◎	特になし。	①外部評価（参加会）を開催し、その参加会報告を受け、「外部評価報告書」を作成する。
14	-3 学習評価フォローアップWG	委員長	企画・研究協力係	3	①R04年度の電子化はほとんど作業をすべて外注していたため、予算の削減になっていなかったことが判明した。よって今年は低予算化を実現するため、3EでFormsを使い全て本校で集計作業することとした。 ②教育の質保証としてシラバス通り授業が行われているか学習評価フォローアップ点検実施要領に基づき点検を行っている。	①課題として、Formsでのアンケートを全クラスに展開するのか、フィードバック報告書の転記のみ外注するのかを次年度に持ち越すことにした。 ②実験スキル計測の質保証という個別の内容については学習評価フォローアップ点検実施要領では点検する仕組みはない。FUで点検するのであれば、実施者の報告または資料提示が必要である。FUではその報告に基づいて点検することは可能である。	活動は概ね良好である。	○	①アンケートの電子化について、Formsの利点・欠点を考慮し、WebClass利用も含めて電子化の方法を検討し実施する。 ②学習評価フォローアップ点検実施要領を更新し、要領に基づき点検を行う。	
15	国際交流室会議	室長	教務係	1	①JASSOの協定派遣・受入はを継続し、専攻科生の派遣を実施できた。しかしながら利用は31日以上滞りに限られており、専攻科生のインターンシップには利用しにくいものであった。このため、JASSOは5年生用にシフトし、本部の実施する高専生の渡航支援プログラムを活用することに切り替えた。 ②シアトル未来理工系人材育成プログラムを実施できた。参加人数は過去最高であった。 ③海外インターン、シアトル未来理工系人材育成プログラム等の研修に参加する海外で活動する学生の支援体制は十分であった。例年の指導に加え、室長による渡航時の注意事項の説明を行えたほか、Teamsでの連携も十分できた。	①ではさくらサイエンスなど他の留学生受け入れのための補助金申請について検討する。 ②はグローバル事業の新規申請を行う際に、低学年、高学年に分けてプログラムを追加することで実施する。	活動は良好である。	◎	特になし。	①JASSO、その他補助金を十分に活用して学生の海外渡航を支持する。 ②シアトル未来理工系人材育成プログラムに加え、低学年で安価に訪問できる台湾の半導体に関する学習向け渡航プログラムを発足させる。 ③研修旅行などを行う際に、担任と連携して海外渡航のリクエストがあれば対応できる体制を作る。
16	人権委員会	事務部長	総務・人事係	3	①ハラスメントに関し、適切な対応を行った。 ②その他人権やハラスメントに関する啓発を行い、人権侵害やハラスメントの防止に努めた。（9/11、弁護士による人権講話を実施）	適切に実施した。	良好である。	○	教職員意見箱の開封確認が適正になされているのか分りにくいため報告内容や対応方法について公表の仕方を検討してはどうか。	①ハラスメントに関する案件が発生した場合、人権委員会として適切な対応を行い、必要に応じて第三者の導入を検討する。 ②その他人権やハラスメントに関する啓発及び研修の企画・実施を行い、人権侵害やハラスメントの防止に努める。

令和5年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和6年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

別紙

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R5	②今年度の活動内容 R5	③自己点検及び改善すべき事項 R5	④評価概要 R5	⑤評価 R5	⑥改善事項 R5	⑦改善事項を踏まえたR6活動計画
17	情報セキュリティ管理委員会	情報処理センター長	図書・情報係	0	①教職員向け、及び学生向けの情報システムユーザガイドラインをそれぞれ改正した。 ②学生電子情報取扱に関する細則を制定した。	改善すべき事項なし。	良好である。	◎	特になし。	①情報セキュリティインシデント発生時の情報処理センターの初動対応手順について明文化する。
18	情報セキュリティ推進委員会	情報処理センター長	図書・情報係	6	①サイバーセキュリティ対策規則に基づきサーバ及びクライアントのシステム台帳を更新した。 ②高専CSIRT提供の情報セキュリティインシデント情報を学内で共有して注意喚起した。 ③新入生対象の情報倫理・セキュリティ研修を実施した。 ④教職員対象の情報セキュリティ研修を実施した。 ⑤標的型メール訓練の開封未報告者に情報セキュリティ関係責任者連名で注意喚起する対策を行なった。 ⑥令和3年度情報セキュリティ監査の助言事項について実施可能な対応を行なった。 ⑦サイバーセキュリティ人材育成事業（K-SEC）参加学生のサポートを行なった。 ⑧学生の高専統一認証/MS365/パスワードを統一した。 ⑨外部電磁的記録媒体への要機密情報保存禁止措置を実施し、申請フォームを作成した。 ⑩学内ネットワークに認証（有線・無線）を導入した。 ⑪教職員向け誓約書及びセルフチェックシート、及び学生向け情報セキュリティ宣誓書を提出させた。 ⑫SNSの業務利用に関するガイドラインを制定した。	改善すべき事項なし。	活動は良好である。	◎	特になし。	①サイバーセキュリティ対策規則に基づきサーバ及びクライアントのシステム台帳を更新する。 ②高専CSIRT提供の情報セキュリティインシデント情報を学内で共有して注意喚起する。 ③新入生対象の情報倫理・セキュリティ研修を実施する。 ④教職員対象の情報セキュリティ研修を実施する。 ⑤標的型メール訓練の開封未報告者に注意喚起する対策を行なう。 ⑥セキュリティ監査の指摘・助言事項について実施可能な対応を行なう。 ⑦サイバーセキュリティ人材育成事業（K-SEC）参加学生のサポートを行なう。 ⑧教職員向け誓約書及びセルフチェックシート、及び学生向け情報セキュリティ宣誓書を提出させる。 ⑨セキュリティインシデント発生時の情報処理センターの初期対応手順について検討する。
19	テクノセンター運営委員会	テクノセンター長	企画・研究協力係	10 (定例8, 臨時2)	■テクノセンター全般 ・本年度は、科学研究費保有課題代表者28件、共同研究12件、受託研究5件、寄附金27件、助成金22件であった。 ・テクノシンポジウムを本校で開催した。 ・教員が研究に専念しやすくなるようバイアウト制度の実施要項を作成した。 ・テクノセンターを外部の者が利用しやすくなるよう、関連規則を見直した。 ・大学改革推進等補助金（高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業）による活動を支援し、実施した。 ■技術開発部門 ・研究シーズ集、地域連携協会会報などをウェブ上で公開した。 ・岐阜テクノフェアブースを出展した。ネットワーク大学コンソーシアム岐阜、岐阜大学地域交流協会、中部イノベネットと連携を通して地域連携を推進した。 ■技術教育部門 ・ものづくりリテラシー教育実習に91名、科学技術リテラシー教育に19名の単位認定を行った。	改善すべき事項なし。	活動は良好である。	◎	なし	■テクノセンター全般 ・地域連携協会、本校産学官連携コーディネータを通じて産学官連携を推進する。 ・テクノシンポジウムの開催。 ・高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業に関する設備等の運用について検討。 ■技術開発部門 ・研究シーズ集、地域連携協会会報などをウェブ上で公開して情報発信する。 ・岐阜県工業会等外部機関との連携を通して地域連携を推進する。 ■技術教育部門 ・リテラシー活動を通して、学生の教育活動を行うとともに地域連携を推進する。
19-1	科学技術リテラシー教育推進室	室長	技術室	1	今年度は学外での発表に特化した多種多様なテーマが新設され、学生募集した総テーマ数も増加した。単位修得者数は本科91名、専攻科19名であった。学内での科学技術(ものづくり)リテラシー活動の規模も大きくなっている。 ・14テーマに対して5/6より学生の参画を募集した。 ・1/17に活動報告会を開催し、テーマごとにポスター発表を行った。	当初の目的を達成した。	活動は良好である。	◎	なし	リテラシー教育活動を継続して毎年参加している学生も増えており、令和6年度も多数の学生の参加者が見込まれる。参画する教員を増加させるために、活動内容を限定せず、教育活動について多種多様なテーマで展開できるよう募集を見直していく。
19-2	若鮎連携推進室	研究主事	企画・研究協力係	7	本校の60周年事業に関して、若鮎会からの資金援助の検討、これを用いた記念品の作成や配布に関して議論を行い、活動を終えた。	当初の目的を達成した。	活動は良好である。	◎	なし	・若鮎会の活動の中で、社会人実践力開発セミナーの状況を分析し、予算的な問題を検討するとともに、学内との連携を図る。
19-3	知的財産委員会	テクノセンター長	企画・研究協力係	1	大成建設、名古屋大学、岐阜高専の3者による発明について審議をし、高専機構本部に権利を承継した。	改善すべき事項なし。	活動は良好である。	◎	なし	新規審査、審査請求対応、権利消滅審議等について適切に対処する。

令和5年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和6年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

別紙

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R5	②今年度の活動内容 R5	③自己点検及び改善すべき事項 R5	④評価概要 R5	⑤評価 R5	⑥改善事項 R5	⑦改善事項を踏まえたR6活動計画
19	-4 機器分析室運営委員会	委員長	企画・研究協力係	1	①ラマン分光器、SEMの検出器の不具合を直した。分光光度計を更新した。 ②利用講習会は実施していないが、規則改正で外部の方が使用できるようにした。 ③メール会議を実施した。 ④3月に規則を改定し、産官学連携ラボの運用に対応できるようにした。	当初の目的を達成した。	活動は良好である。	◎	なし	①機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理する。 ②申し込みがあった場合は、利用講習会を実施する。 ③会議を1回実施し、年度計画、役割分担などを確認決定する。
20	メディア委員会	研究主事	図書・情報係	6	■図書館部門 1) ブックハンティングの参加者について、募集方法を工夫することにより、自発的な参加を実現した。 2) 試験期間中以外の日曜日にも図書館センターを開館することを検討し、実現した。 3) メディアなどを活用して広報活動を行い、利用者の増加を実現できた。 ■情報処理センター部門 1) コロナ禍の収束があっても、遠隔授業や情報リテラシーのスキルについては、教育を継続するため、導入教育を実施した。 2) 教員室・研究室等で設置されているPC等について、網羅的な管理体制を構築するため、有線接続に関してもユーザー認証を導入した。	当初の目的を達成した。	活動は良好である。	◎	特になし。	■図書館部門 1) 図書館の設備について、効果的な活用のための整備計画を検討する。 2) メディアなどを活用して広報活動を行い、利用者の増加を図る。 ■情報処理センター部門 1) コロナ禍の収束があっても、遠隔授業や情報リテラシーのスキルについては、教育を継続する。 2) 教員室・研究室等で設置されているPC等について、網羅的な管理体制を構築する。
20	-1 IT技術管理WG	情報処理センター長	図書・情報係	6	①高専統一ネットワーク接続の認証を必須化した。 ②高専機構のAzure運用見直しに伴う以下の作業を実施した。 ・さくらのクラウドへのサーバの移行方法、バックアップ方法等について業者と打合せを行なった。 ・本番サーバによる運用試験後移行を完了した。 ③教育用電算システムの更新に伴う演習室の削減とBYODの導入について検討して報告した。 ④eduroam（研究教育機関用無線ネットワークローミングシステム）用セグメントを作成してeduroamに参加した。	改善すべき事項なし。	活動は良好である。	◎	特になし。	①教育用電算システムの更新に伴う演習室の削減とBYODの導入について、優先順位をつけて検討を進める。 ②高専統一ネットワークの更新に備えて行うべき作業を実施する。 ③耐用年数を迎えつつあるAPの更新について検討する。
20	-2 アクティブラーニング推進WG	情報処理センター長	図書・情報係							
21	学生相談室会議	室長	学生係	10	①月1回会議を開催し、学生支援に関する情報共有を行った。 ②学生の生活状況、ストレス状況などを把握するためのアンケート調査を6月と11月に実施した。 ③学生やその家族のメンタルヘルスを維持するため、Teamsを利用したオンライン面談、電話相談を併用した。 ④1・2年生を対象に特活時間を利用して5月、7月メンタルヘルス講座を、11月、12月にコミュニケーションに関する講演会を実施した。 ⑤業務体制に合わせた関連規程の改正を検討し、ハラスメント窓口業務に関する規定とフローを改正した。 ⑥9月にいじめと発達障がいに関する講演会を開催し、学生支援の質の向上を図った。	昨年度に引き続き、橋本特命教授と岡本保健師の参画を得て体制の充実を図ることができた。 また、合理的配慮学生とその保護者に対して丁寧な対応ができたと考える。 また、重大事案に対しても、顧問弁護士に相談し助言を仰ぎながら、迅速な対応とその後のフォローを進めることができた。 担任や教科担当の先生方からの相談も増え、学生の学びやすい環境構築に組織として対応できていると考える。 規定の改正については、引き続き問題点がないかをその都度注視して、改善の余地があるならば確認をしていく必要がある。	活動は良好である。	◎	特になし。	①月1回会議を開催し、学生支援に関する情報共有を行う。 ②学生の生活状況、ストレス状況などを把握するためのアンケート調査を行う。 ③学生やその家族メンタルヘルスを維持するため、Teamsを利用したオンライン面談、電話相談を併用する。 ④1・2年生を対象に、特活時間を利用してメンタルヘルス、コミュニケーションに関する講演会を実施する。 ⑤業務体制に合わせた関連規程の改正を検討する。 ⑥研修等により、引き続き学生支援の質の向上を図る。

令和5年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和6年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

別紙

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R5	②今年度の活動内容 R5	③自己点検及び改善すべき事項 R5	④評価概要 R5	⑤評価 R5	⑥改善事項 R5	⑦改善事項を踏まえたR6活動計画
22	教員会議	校長	総務・人事係	7	・定例会議7回開催、臨時会議なし ①主管会議・運営会議にて審議および協議された事項について周知報告を行い、意見を聴き、本校の意思統一を図った。 ②定例会議7回開催、臨時会議なし	適切に実施した。	主管会議と共通とする。	○	主管会議と共通とする。	①主管会議・運営会議にて審議および協議された事項について周知報告を行い、意見を聴き、本校の意思統一を図る。 ②年間7回の定例会議を開催する。
23	学級担任会議	教務主事	教務係	4	①4回の全体会議（終了後に学科別分科会）と研修旅行等関連の会議を対面開催し、学級担任間の連携を図った。 ②授業実施形態等に関する連絡事項は頻繁に発生したため、教職員及び全学生に対して教務主事から随時メール等での連絡を行った後、各担任によるフォローを依頼した。	適切に実施した。	活動は良好である。	◎	特になし。	① 4回の全体会議と研修旅行等関連の会議を開催し、学級担任間の連携を図る。学級担任会議では学級担任からの活発な意見が出ているため、引き続きこの形態を継続する。 ② 引き続き随時教職員、学生への連絡体制を維持する。
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生係	3	定例である年間3回のクラブ顧問連絡会議を全て実施した。定例の会議は、概ね連絡事項、依頼事項等を正確に伝えられ、その役割を概ね果たした。 R6年度のクラブ顧問の配置は、各クラブの公式戦等の回数を考慮し、エフォートの幅を狭めることを行った。	活動状況は良好である。ただし、各クラブ顧問でエフォートに幅があると推測される。来年度以降も、複数クラブの合併管理、公式戦等の時間外手当について、丁寧に案内し、労働環境の改善に繋げる。	活動は良好である。	◎	特になし。	R5並みの活動を維持する。 各クラブ顧問でエフォートの幅は、公式戦を時間外業務命令にする等で補う。
25	若鮎奨学基金運用委員会	校長	総務・人事係	2	①若鮎奨学基金について適切な管理・運営（表彰・助成金の助成）を行い、学生の課外活動や学会発表参加の促進を図った。 また、規則改正についても検討・実施した。	適切に実施した。	活動は良好である。	◎	特になし。	①若鮎奨学基金について適切な管理・運営（助成金の助成）を行い、学生の資格取得や学会発表参加の促進を図る。
26	特別支援検討委員会	学生主事	学生係	12	配慮申請書の提出があった学生に対する検討を委員会で実施した。会議回数は昨年度4回から今年度12回に増加した。	学生及び保護者からの要望に応じて適切に会を開催し、学生を支援できた。一部、タイバシティに関する支援は、その方法に引き続き検討を必要とする。改善すべき事項はない	活動は良好である。	◎	特になし。	学生及び保護者からの要望を受けて、学生の学修や学校生活に支障が出ないように、迅速かつ個々の状況に合った対応をする。
27	ダイバーシティ推進室 (旧男女共同参画推進室)	教務主事	総務・人事係	2	①今後の校舎等改修計画においても継続してダイバーシティ推進の観点からの施設整備改善の検討を行うため、教務主事が室長を兼任することで、財務・施設委員会と連携して改善しやすい体制を維持し、LGBTQの学生等も更衣室として使用できるよう、第一体育館および1号館の多目的トイレにフィッティングボードを設置した。また、次年度以降、室名（および室の役割）をダイバーシティ推進室に変更するため検討し、規則改正に至った。 ②学生および教職員に対し、適切な啓発活動を検討・実施した。（GCONの参加推進など）	適切に実施した。	活動は良好である。	◎	特になし。	①ダイバーシティ推進の観点からの施設整備改善に活かされるよう体制を整えるとともに、関係者への情報共有を徹底する。 ②学生および教職員に対し、適切な啓発活動を検討・実施する。
28	リスク管理室会議	校長	総務・人事係	3	①学生等の安全・教育研究等にかかわる重大な事態が発生した際に速やかに開催し、必要な措置を講じた。 特に、年度当初、特に5類に引き下がるまでの期間においては、新型コロナウイルスに関し、迅速な措置を講じ、感染拡大リスクを抑えるよう努めた。 また、5類に引き下がった以降も、対策の緩和等について適切に周知した。	適切に実施した。	活動は良好である。	◎	特になし。	①感染症の発生、学生等の安全・教育研究等にかかわる重大な事態や、本校の社会的信頼を損なう事態、施設管理上の重大な事態が発生した際に速やかに開催し、必要な措置を講じる。
29	キャリア支援室	教務主事	教務係	1	①令和5年度キャリア教育プログラム（共通・専門）の実施を確認した。 令和6年度キャリア教育プログラム（共通・専門）の計画を確認した。 学生のキャリアサポート、就職・進学関係情報提供を継続した。（進路相談6件、面接練習11件） ②キャリアサポートシステムへの移行を行い、企業側から会社情報を登録していただけるシステムとした。掲載企業数は1319社となっている。	適切に実施した。	活動は良好である。	◎	特になし。	①キャリア教育プログラム（共通・専門）を継続する。 ②学生のキャリアサポート、就職・進学関係情報提供を継続する。

令和5年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和6年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

別紙

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R5	②今年度の活動内容 R5	③自己点検及び改善すべき事項 R5	④評価概要 R5	⑤評価 R5	⑥改善事項 R5	⑦改善事項を踏まえたR6活動計画
30	いじめ対策会議	校長	学生係	11	定例の会議を4回、個別案件の会議を7回開催した。定例の会議では、いじめ防止対策にかかる評価と今年度目標の確認、いじめに関するアンケート調査内容の検討及び実施、いじめに関するアンケート結果の把握、いじめ講演会の実施、外部評価等について実施及び検討した。	適切に実施された。	活動は良好である。	◎	特になし。	令和5年度と同様の事項を実施及び検討するため、会議の開催を年間6回予定している。併せて、アンケート項目の検討やいじめ講演会の実施についても検討する予定である。